

セキュリティ対策

-78-

被害を少なく
迅速なデータ復旧へ

であり、復旧には人手と時間を要する。しかし、バックアップを取っておくことでこの被害を縮小することが可能である。

迅速にデータを復旧し業務継続できなければ、組織の信頼も失墜し、存続の問題につながりかねない大きなリスクとなる。そこで本稿では適切なバックアップ運用について、取得、保管、復旧の三つのフェーズに分けて解説する。

取得方法、日時、間隔を検討

バックアップの取得に当たっては、対象を選定し、取得方法や取

得日時、間隔を検討する。バックアップの対象は業務データだけではなく、システムの稼働に必要な設定ファイルや、プログラムも含め、バックアップ対象を選定する。

また、サーバーの稼働要件に合わせてオフライン、オンラインバックアップのどちらかを検討する。対象のデータごとに適切な取得日時、間隔を検討する。

例えば、業務データは週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

適切なバックアップ運用を

バックアップから変更に追加されたデータを複製)をする。プログラムファイルはシステム改修がない限り変更はないため、リリース時のみバックアップをする。設定ファイルは随時変更があるため

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

保管場所と世代管理が重要

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

復旧計画は定期的に確認

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

バックアップの取得は週に1回フルバックアップ、その他の日差分バックアップ(フ

情報セキュリティ対策の基本と共通対策

IPSA 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター

2023年2月

情報セキュリティ対策の基本と共通対策 (情報セキュリティ10大脅威 2023版)

「情報セキュリティ10大脅威 2023」はこちら

